



品番	サイズ
EA998SZ-23.5	23.5cm
EA998SZ-24	24.0cm
EA998SZ-24.5	24.5cm
EA998SZ-25	25.0cm
EA998SZ-25.5	25.5cm
EA998SZ-26	26.0cm
EA998SZ-26.5	26.5cm
EA998SZ-27	27.0cm
EA998SZ-27.5	27.5cm
EA998SZ-28	28.0cm

取扱い中止

- JIS T8101 安全靴 CI/S/P1/F1
- 甲被 牛革(型押しソフト)
- 三層構造底(発泡ポリウレタン&2層ラバー)
- ACM樹脂先芯入り

<安全靴JIS規格について>

■安全靴の種類

■作業区分による種類(記号)

種類	甲被
革製	革
総ゴム製	耐油性ゴム
	非耐油性ゴム

作業区分	記号
重作業用	H
普通作業用	S
軽作業用	L

付加的性能	記号
耐踏抜き性	P
かかと部のエネルギー吸収性	E
足甲プロテクタの耐衝撃性	M

JIS T8101革製安全靴の性能(抜粋)

種類		重作業	普通作業用	軽作業用
記号		H	S	L
	耐圧迫性	圧迫荷重 15KN (1531kgf)	10KN (1020kgf)	4.5KN (459kgf)
	性能	ストライカ重量	20kg	
落下高さ		51cm	36cm	15cm
中底と先芯のスキマ		*試験時の中底と先芯のスキマ参照		
表底の剥離抵抗		300N(30.6kgf)以上		250N(25.5kgf)以上

試験時の中底と先芯のスキマ

サイズ	すきま(mm)
23.0以下	12.5以上
23.5~24.5	13.0以上
25~25.5	13.5以上
26~27	14.0以上
27.5~28.5	14.5以上
29以上	15.0以上

付加的性能のある安全靴のJIS基準

■ 甲プロテクタの耐衝撃性

記	性能
M	最低の高さ(mm)
	25以上

■ 耐踏抜き性

記	性能
P	くぎ貫通時の力(kgf)
	1100(112.2以上)

■ かかと部分の衝撃エネルギー吸収性

記	性能
E	吸収エネルギーJ(kgf・m)
	20(2.0)以上

● 安全靴ご使用の注意事項

- 安全靴は、先芯で覆われた爪先部を保護するもので、JIS T8101(安全靴)に規定する性能を有していますが、それを超える衝撃、圧迫に耐えられるものではありません。
- 滑りにくい靴底ですが、油や水の多い場所では気をつけてご使用下さい。
- 1度衝撃や圧迫を受けた安全靴及び足甲プロテクタは、外観のいかに関わらず、速やかに交換して下さい。
- 着脱式足甲プロテクタは、安全靴の先芯の後端にプロテクタ本体が3m/m以上重なるよう取り付けて下さい。
- 安全性能が低下しますので、先芯に穴をあける等の加工はやめて下さい。
- 耐踏抜き性を表示してある安全靴は、1100N(112.2kgf)以上の踏抜き強度がありますが、それを越える強度に耐えられるものではありません。
- 爪先部に硬質の先芯が入っていますので、足入れには十分注意して下さい。
- 飛び降りると事故の原因となる場合があります。
- 甲被の損傷、それによる先芯の露出や、靴底の損傷または意匠がなくなったような場合は、使用せず、速やかに交換して下さい。
- 安全靴ですので、スポーツやレジャー、その他の目的には適していません。
- かぶれやかゆみ等、足に異常を生じた場合は使用をやめて下さい。
- お履きになる際には、靴ひもや面ファスナーは正しく締めて下さい。
また、かかとをつぶしてお履きにならないで下さい。
- 牛革を使用した靴は、汗をかいたり、濡れた時は多少色落ちを生じることがあります。
- 冬期の気温の低い時期に牛革の表面に白い粉がふいた状態がみられることがありますが、これは革の中に含まれている油が凝固したもので、劣化やカビではありません。

● 発泡ポリウレタン表底安全靴の特性と留意点

<特性>

- 発泡ポリウレタン2層底安全靴は、従来のゴム底安全靴よりも30%程の軽量化を実現。
- さらに、かかと部の衝撃吸収性にも大変優れている為、ご使用の皆様足の疲労を軽減。
- 耐摩耗性、ノンマーキング性、耐滑性に優れた効果を発揮。

<留意点>

- 金属切削屑等の鋭利な物を踏むと切り傷ができ、底割れの原因となります。
- 通常温度以上の熱湯、または熱体に直接接触するような作業環境(炉前作業、鑄造作業、熱処理作業、溶接作業等)では底が溶解することがありますので、使用しないで下さい。
- 酸・アルカリ等の薬品やシンナー等の溶剤、水を多量に使用する作業環境では、はがれや破損、加水分解を生ずることがありますので、ご注意下さい。尚、靴に薬品等が付着した場合は、速やかに拭き取って下さい。
- 湿気により経年変化を起こすことがありますので、靴が濡れた場合、高温多湿、直射日光を避け風通しの良い日陰で乾燥保管して下さい。

ポリウレタン底の加水分解について

加水分解とは、物に水分子が加わって物が分解する現象を言います。これは、ウレタン生成段階(靴底の生産)から少しずつ加水分解という劣化が始まり、靴底の内部補強が落ちていきます。このように、ポリウレタン底は湿気による経年変化を起こすことがありますが、取り扱いや保管方法に注意することで長持させる事が出来ます。

- 長期間の保管は避けて下さい。
- 普段なるべく履いて下さい(履くことにより、水分の調節が可能となります)
- 短期間でも保管する場合は、風通しの良い場所で保管して下さい。
- 水に濡れた場合は必ず拭き取って、高温多湿及び直射日光を避け、風通しの良い日陰で自然乾燥してから保管して下さい。